

個別に最適化された方法で学ぶ

○自分に最適化された方法で学ぶ ○修得主義

違う場所で違うペースで学ぶ

○自分のペースで学ぶ

同じ場所で

同じペースで学ぶ

○教師の説明を聞いて学ぶ
○履修主義

学び方

学びの改革

答えに導く授業

○知識をどれだけ獲得したかを問う

授業

習得する力

○知識・技能の習得

学力

学校で学ぶ

○教室で学ぶ
○教師から子どもへの対面指導

学ぶ場

ビフォー・コロナ

ウィズ・コロナ

アフター・コロナ

自律して学ぶ力

○自ら計画を立てて学ぶ力の涵養

探究する力

○学びに向かう力に支えられ、習得した知識・技能を基に思考・判断・表現し、新たな知を構築する力

自ら問いを立て
答えを見いだす授業

○様々な人と協働し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成

長期休業による
授業の変化

○ICTの活用による学びの継続
○「学校ならではの学び」の再認識
・家庭で学べること
・学校でしか学べないこと
・教師の役割

社会に開かれた学校で学ぶ

○家庭や地域と「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を再共有

【主体的・対話的で深い学び】を大切にした「学びの保障」への取組

佐久市立佐久平浅間小学校では、限られた分散登校の時間と家庭学習の組み合わせで子どもたちの学力を保障するために、普段の授業における「個人で考える時間」を家庭学習にするという考え方をもとにして取組を進めました。具体的には

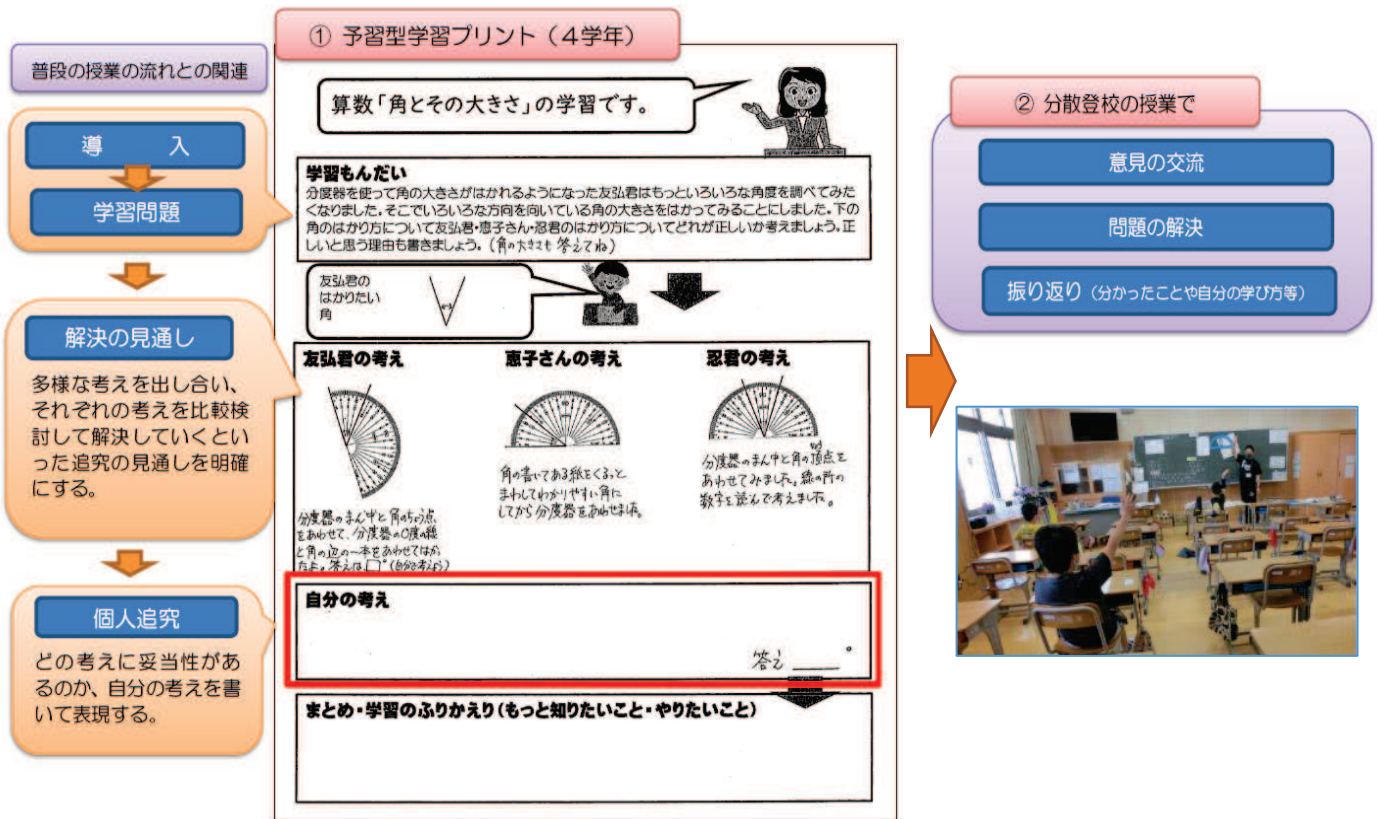
- ①家庭学習で、学習問題に対する自分の考えを作り出す
- ②分散登校中の授業で、それぞれの考えを交流し、まとめていく。

というサイクルで学びを構成しています。

例えば、4年生の算数では、家庭で取り組むプリントで問題を解決する見通しを持ち、自分の考えをまとめます。

そして、分散登校した際に互いの考えを出し合ってより良い考えにまとめ、問題を解決していきます。

①予習型学習プリント⇒②分散登校での授業 (4学年の取組)



このように取り組むことで友と協働して学ぶことの意義が一層はつきりするとともに、これまで2～3時間かけて学習していた内容が1時間でできるという良さも見えました。

こうした学習を進めていくためには、家庭学習と授業の関連を明確にし、授業動画も活用した学習計画を、子ども自身も自覚して取り組むことが大切です。

<学習計画の例>

【算数】		【家庭で学習すること】	【学校で学習すること】
NO 1 0	体積①	プリントにそって、体積の学習を進めよう。 ※オクレンジャーで解説動画がある場合は、それも参考にしてみよう。	練習問題を通して、大切なことを確認する。 確認のドリル問題を行う。
NO 1 1	体積②		
NO 1 2	体積③		

予習型学習プリントと分散登校における授業の目的を明確にした指導を行うことで、子どもたちの学びは一層自律的な学びへと変化してきました。

ピンチをチャンスに！伊那中学校の挑戦

(ICTの活用による学びの継続・「学校ならではの学び」の再認識)

1週間の予定に分散登校日とオンライン授業日を位置付けた伊那中学校

臨時休業中のオンライン学習について

1学年主任 小川 浩

日課表 ~1日の流れ~

9:30~	朝学活 (健康観察、時間割の確認)
9:45~10:10	1時間目
10:20~10:45	2時間目
10:55~11:20	3時間目
11:30~11:50	学習相談 (希望者) Zoomを使用
12:00~13:00	昼食、休憩
13:10~13:35	4時間目
13:45~14:10	5時間目
14:20~14:35	午後学活 (翌日の連絡など)

※Zoomによる生配信授業の場合は、必ずオンライン授業に参加。YouTube録画授業はそ
の必要なし。

授業では、
・プリント
・教科書
・問題集
・筆記用具
を準備してください。

1 学年主任 小川 浩
登校するみなさんは、
各学級をお願いします。

時間割

1年	11日(月)	12日(火)	13日(水)	14日(木)	15日(金)
I	体育	国語	数学	社会	国語
II	数学	数学	社会	理科	英語
III	美術	社会	理科	英語	
IV	技術家庭科	理科	英語	国語	学びの振り返り Time
V	理科	英語	音楽	数学	

で囲った時間はライブ配信の予定です。その時間に各学級のZoomに
ログインしてください。

伊那中学校では毎週月曜日を分散登校日、火曜日
から金曜日をオンラインでの授業日とした。

分散登校の月曜日に、1週間分のオンライン学習
の予定時間割 (教科名と共に「生配信による」授業
か「録画による」授業かが明記されている) とその
週に使用する学習プリントを配布する。

オンライン授業の一日は Zoom を使用した朝の
学活で始まり、2~3 コマの生配信授業と Zoom を
使用した学習相談、2~3 コマの録画授業があり、
Zoom による午後の学活で終わる。

学活にしても授業にしても参加は自由。先生方が
工夫を凝らして参加したくなるものにしており、参
加率は高い。「録画による」授業はいつ受けてもよい

ものであるが、多くの生徒が自発的にその時間割に合わせて受信している。

「生配信による」授業に対しては、生徒の参加の方法は3通りあり、生徒は自由に選択できる。

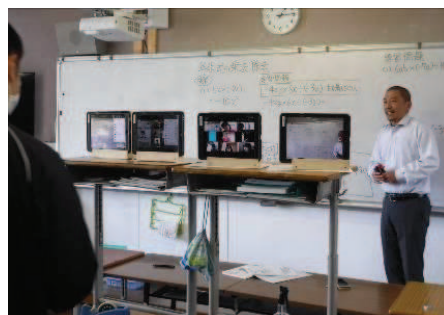
- ①リアルタイムでの参加 →ほとんどの生徒はこの方法で授業を受けている。
- ②録画したものでの参加 →この生配信授業の録画配信は授業をリアルタイムで受けた生徒も
もう一度視聴するといった活用もされている。
- ③教室での参加 →使用機器や学習環境の関係で、学校で授業を受けたいという生徒
(10名ほど) が自由参加で学校に来ている。

参加させるのではなく参加したくなるように工夫し、参加方法も自ら選択できるようにしている
ことに生徒の自主性、自発性を伸ばしていきたいという学校 (校長) の熱い思いがある。

「生配信による」授業の様子から

生配信する時間は25分間。タブレットの前で手を挙げて
もらうなどして生徒の反応を感じながら授業を進める
ことができる。また、生徒の声はチャット機能を活用して
授業に反映させ、授業の向上に役立っている。

オンラインでの授業には、学校に登校しても授業に参加
できにくかった生徒や不登校の生徒も参加している。この
ことがきっかけとなり、不登校であった生徒が登校につな
がったケースもある。



先生方の意識、取組の様子から

先生方が一つにまとまって今日より明日、よりよい配信や録画をしていきたいと、苦勞を厭わず、
挑戦を面白い気持ちで授業づくりをしている。また、ベテランの先生の疑問に答えている中で、
OJT (On The Job Training) が自然な形ですすめられている。

高校における ICT 活用事例（長野県長野高等学校）

1 できる人から試験的な取組（3月～4月24日）

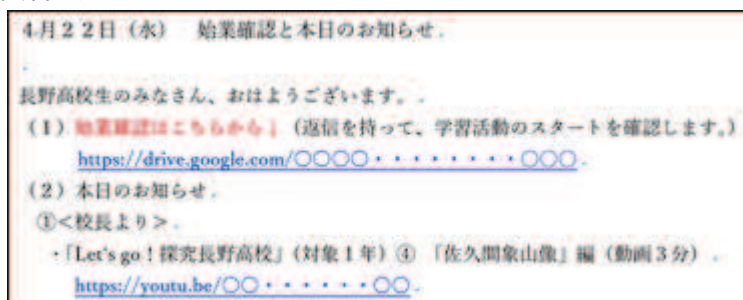
(1) YouTube の活用

3月の終業式等における校長講話のWeb配信。また、4月8日（水）から2年生「英語キャリアプロジェクトⅡ」の授業の導入として、英語科以外を含めた複数の教員が1分間英語で話す動画を模範として配信。それを受けて生徒は英語によるスピーチにチャレンジ。

(2) Gmail の活用

(資料1)

4月13日（月）から全校一斉メール配信（Gmail）を活用した健康チェックを実施。あわせて、Googleドライブを活用した動画配信、学年・教科からの学習に関する連絡、オンラインによるコンテンツ等の配信を行った。(資料1)



(3) Google classroom の開設

4月20日（月）から24日（金）の1週間を準備期間とし、全教科・科目についてオンライン授業を生徒が受講できるように、全職員が講座別の「Google classroom」を開設。

2 全校での本格的な取組（4月27日～）

(資料2)

(1) Google classroom の運用

4月27日（月）から教科書に沿った学習を開始。扱った内容は再開後の授業で基本的に扱わなくてよいように指導。生徒は自分の履修教科・科目をすべてオンラインで登録。

(資料2)

教員はすべての教科・科目で授業の解説動画や課題等を配信。また、Google フォームによる確認小テストを実施。

(2) Google Meet (Web 会議システム) の活用

①教科横断型授業の実践

青年海外協力隊の看護師に依頼し、「ザンビアの栄養と健康」についてオンライン講義を実施。地歴科と総合的な探究の時間の連携による企画。希望生徒約50人が参加。(5月1日)

②総合的な探究の時間での活用

SDGs 地方創生国際会議 in Nagano を開催。県内外7校より高校生10名、国内外6大学より大学生6名、海外の社会人等20名が参加し、オンラインでつながる会議を実施。(5月23日)

	1年	2年	3年
英語	1年現代文 1年古典	2年現代文 2年古典	3年現代文 3年古典 3年文系国語
地理・公民	1年世界史A現代社会	2年世界史 2年日本史(松本講座)JK2 2年日本史B(島田) 2年地理授業	3年日本史B 3年地理授業 3年倫理 3年政治経済 3年世界史B
数学	1年数学	2年数学理系(PQRS) 2年数学文系(IJK)	3年数学文系 3年数学理系 数学ⅡAB 3年数学理系 数学Ⅲ
理科	生物基礎 化学基礎	理系物理 理系化学 理系生物 物理基礎 地学基礎	理系物理 理系化学 理系生物 文系生物基礎 化学基礎 地学基礎
英語	1年英語	2年英語	3年英語
	1年 音楽Ⅰ	2年 音楽Ⅰ	3年 音楽Ⅱ

3 オンライン学習の感想

- ・オンライン授業は、自分のペースで取り組み、いつもより丁寧に予習・復習ができるので、定着しているなど感じます。
- ・断熱圧縮の実験で、発火の瞬間に想像以上に光輝いたので驚きました。やはり実験は面白いと思いました。また、アニメーションで変化のイメージを掴むことができました。
- ・まだオンラインで自分の意見を発信するには抵抗がありますが、いろいろな人の意見を気軽に聞いて、なおかついい刺激になりました。

速報値

臨時休業に伴う学習の状況

学びの改革支援課

1 臨時休業に伴う学習進度の遅れについて（5月末現在）

休業なく5月末まで登校できていた時の通常の学習進度を100%とした場合、5月末までに実際に学習できた進捗

校 種	小学校（355校）	中学校（187校）
全県平均（%）	32.3	32.0
80%以上進めることができた学校数	12校（3%）	13校（7%）
20%未満の学校数	94校（27%）	75校（40%）

※小・中学校は、平均でおよそ4週（116時間程度）の遅れ

2 遅れた学習を取り戻すために各学校が検討している取組

項目	休業中の遠隔教育により学習を進める	夏季休業を短縮して授業日数を増やす	土曜日に補充授業を実施する	学校行事の中止や短縮等の見直しを行い授業時数を確保する	1単位時間を短縮して1日の授業数を増やす	放課後等の時間を活用して補習を実施する
小学校	49校 (14%)	343校 (96%)	7校 (2%)	347校 (97%)	97校 (27%)	67校 (19%)
中学校	29校 (16%)	178校 (95%)	10校 (5%)	181校 (97%)	69校 (37%)	54校 (29%)